

研修施設を親施設とした研修施設群を形成して専門研修を行うこととする。

2022年度より小児がん認定外科医試験を開始する。小児がん認定外科医新規申請に際し、がん治療認定医資格を持たない場合でも、一定の研修を受けた後、小児がん認定外科医試験に合格することで認定可能とする。

COVID-19感染の影響と緩和ケア研修会(CLIC)の受け入れ可能人数を鑑みて、規則の付則21「2022年度より緩和ケア研修会(CLIC)受講歴を小児血液・がん専門医認定申請および資格更新のための必須条件とする。」の施行を2年延期し、2024年度からの施行に変更した。

以上に基づいた規則変更案が説明され、議長が承認を全員に諮ったところ、異議なく承認された。また、上記に従って専門医制度施行細則も修正され理事会で承認済みであることが報告された。

(報告事項)

1. 令和3年度事業計画について

議長より、令和3年度事業計画について報告がなされた。

2. 令和3年度収支予算について

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本理事より令和2年度収支予算について報告がなされた。

3. 庶務報告

議長は、庶務・財務委員会松本公一担当理事に報告を依頼し、松本理事より令和元年度庶務報告がなされた。

4. 委員会報告

議長より、委員会活動状況について概説がなされ、一部担当理事から補足説明する形で、資料をもとに、以下の報告がなされた。

<規約委員会>

・評議員等資格審査委員会から評議員資格更新要件改定の提案を受け、評議員資格の更新、附則の追加が行われたことが報告された。

<倫理委員会>

・審議事項が特に無く、委員会開催実績はなかった。

今後、いわゆる統合指針「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」への対応、ゲノム医療時代の研究・診療の在り方等について検討とすることが報告された。

<学術集会プログラム委員会>

・学術集会の開催に向けて、プログラム作成、演題採否や学術集会開催に関する課題の検討、優秀演題の選定、Pediatric Blood & Cancer 誌抄録掲載などを行ったことが報告された。

<学会誌編集委員会>

2020年度下期の活動について下記が報告された。

・令和2年度下期は3号の学会誌を発行したことが報告された。

・評議員の査読打診の辞退や、3回督促しても返答のないケース、査読者の偏りなどの問題点と、その対応策について報告された。

- ・旧日本小児血液学会誌(前身学会の学会誌)からの転載依頼を受け、非会員からの論文購読の申請対応と同様に、3,000円(もしくは30ドル)での購入として取り扱うこととなった。
- ・今年度の学術集会(オンライン開催)に伴う抄録集は4号として発行するため、J-STAGEで本公開する際は、編集委員長が他号と同様、チェックを行う体制であることが報告された。

2021年度上期の活動として下記が報告された。

- ・一般投稿論文の審査ならびに講演記録論文の閲読を行う。
- ・2021年度上期の学会誌は、58巻1号、2号、3号を発行予定。

<診療ガイドライン委員会>

2020年度下期活動報告として、下記2点が報告された。

- ・小児慢性特定疾病の「概要」および「診断の手引き」の改訂を行った。
- ・小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン、小児がん診療ガイドライン2016の改訂作業を開始した。

<学会賞等選考委員会>

「第10回日本小児血液・がん学会学術賞受賞者」「第1回小児がん病理病態研究学術奨励賞」「令和2年度大谷賞受賞論文」各賞の選考推薦を行った。

<研究審査委員会>

- ・臨床研究審査について、3件が承認されたことが報告された。
- ・「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」(以下、小児がん登録)研究計画書改訂について、2020年9月10日に作成済だった第5版を第4版とすることが2021年1月22日の理事会で承認されたことが報告された。

<学術・調査委員会>

2020年度の活動報告として下記について報告が行われた。

- ・「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」を JCCG 固形腫瘍観察研究、JPLSG 登録システムとも連携して新規登録システムとして構築し、2018年症例からの症例登録を運用しており、現在は2020年症例について集計中であることが報告された。
- ・「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」改訂第4版の倫理審査を理事長施設および学会研究審査委員会に提出し、承認後にHP公開を行ったことが報告された。
- ・COVID-19に関するガイダンス、関連論文の調査、HPでの情報提供 各学会、研究組織(COG, SIOP, St Jude HP, ASH など)より出ているガイダンス、statementの翻訳、小児血液・がんに関する関連論文の要約を行い、一般向け、医療者向けに分けてHPで公開した。
- ・関連研究班との事業

- ①厚労科研令和元年度厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業「小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化」(鈴木班)でアンケート調査を行い、第62回学術集会で報告した。
- ②厚生労働科学研究班「全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究班」(平田班)へ小児がんに関連する学会として出席し、情報交換を行った。

2021年度の活動計画として下記が報告された。

- ・症例登録事業の今年度の状況の確認・解析・公開
- ・症例登録事業の倫理審査体制の管理
- ・COVID19 関連のHPでの情報提供

・関連班研究との連携

<疾患委員会>

- ・疾患委員会は、7つの小委員会で活動しており、各委員会の活動内容が報告された。
- ・2020年11月に小委員会委員の改選が行われ、新たな小委員会委員長が選出され、小委員会委員の任期については、委員会活動の継続性を鑑み、学術集会時の臨時社員総会までに変更されたことが報告された。
- ・小児慢性特定疾病の「疾患概要」と「診断の手引き」の改訂に際し、「血液疾患」及び「悪性新生物」について、診療ガイドライン委員会と協力し作業を行ったことが報告された。

<看護委員会>

2020 年度下期の活動として下記の報告が行われた。

- ・JSPON(日本小児がん看護学会)の「小児がん看護師」に関して、テキスト執筆と e ラーニング制作、認定に協力した。また、同認定により2021年3月31日に日本初の「小児がん看護師」16名が誕生したことが報告された。
- ・前委員会で企画し実施した医師・看護師・家族対象の全国調査が終了し、第63回日本小児血液・がん学会学術集会、及び、第19回日本小児がん看護学会学術集会にて、4つの演題を発表予定であることが報告された。
- ・今期の委員会として「地域における小児がんの子どもの緩和ケアの充実」を目指して活動することとなったことが報告された。
- ・天野委員が、今年度の学術集会で開催される2学会合同シンポジウム「生きることを支えていくためのエンド・オブ・ライフケア」の座長を務めることになったことが報告された。

2021 年度の活動計画として下記の報告が行われた。

- ・「地域における小児がんの子どもの緩和ケアの充実」に向け、地域の訪問診療や訪問看護向けの研修会や、成人領域との協働などの検討を行う。
- ・前委員会で企画し実施した医師・看護師・家族対象の全国調査に関して、論文発表に向けて準備を行う。

<教育・研修委員会>

- ・2020年度は全国各地7会場での地区セミナーの開催と、1回の小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(CLIC)の開催が報告された。
- ・2021年度活動計画として、CLIC は3回(7月、10月、2022年3月)の開催を、第63回日本小児血液・がん学会・教育セッションとして7つの講演を予定していることが報告された。

<専門医制度委員会>

専門医制度について、下記について報告された。

- ・専門医研修施設の暫定認定要件の暫定措置を2022年まで1年延長。
- ・COVID-19感染対策により中止になった学会等を考慮して、暫定的に2021年2月の更新予定者のうち、基準に達しなかった該当者について1年間の更新猶予を認める。
- ・2021年3月31日で認定期間が終了する暫定指導医の認定期間を2022年3月31日まで延長。
- ・第7回日本小児血液・がん専門医試験を2021年9月11日、12日に施行予定。
昨年申請したが受験できなかった専攻医も対象に含む。(2020年度の実験予定者は、試験に合格した場合、1年さかのぼって専門医の認定となる)
- ・小児血液・がん専門医研修到達目標第2版を作成した(資料提示)。

<社会・広報委員会>

2020年度の活動として下記について報告され、2021年度も引き続き継続することが報告された。

- ・ホームページ上での本学会活動の広報
- ・各委員会活動の報告書の更新(毎年総会後の更新を予定)
- ・国、厚労省や他学会などからのお知らせ
- ・各種団体から学会ホームページのリンク
- ・ホームページのリニューアル
- ・JSPHO 会員用ニュース(JSPHO ニュース)

<保険診療委員会>

- ・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による「骨髄微小残存病変量測定(PCR-MRD)」について、2021年度は4施設認定審査(更新)を承認。
- ・施設認定審査の締切を12月末日とし、施設認定申請書(更新)の一部訂正を行う。
- ・「令和4年度診療報酬改定最終提案書」として、3件を内保連に提出した。
- ・55年通知による診療報酬支払基金の「審査情報提供検討委員会」の検討申請について 日本小児科学会社会保険委員会にて10の薬剤の申請を承認されたため、今後順次申請を進める。
- ・「選定療養として導入すべき事例等」の提案・意見を募集したが、会員からの意見はなかった。
- ・神経芽腫委員会より厚労省「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」へ1件の申請書提出を行った。

<国際委員会>

- ・日韓ジョイントシンポジウムにおいて、2020年度の第62回学術集会では、日韓それぞれより演者が選出された。2021年度の第63回学術集会にも日韓それぞれより演者が選出されている。
- ・韓国小児血液がん学会(KSPHO)において、2020年度は演者の推薦依頼があり、本学会より2名を推薦し、講演が行われた。2021年度も依頼を受け推薦予定である。
- ・WHOの小児がんProject(Global Initiative for Childhood Cancer) の目標達成に向けて、本学会も日本小児がん研究グループ(JCCG)および国立国際医療センター(NCGM)との連携のもと協力していく方針を確認し、数回の会合が開催された。カンボジアで小児がん診療に従事している嘉数真理子医師とwebを通して症例検討を9回実施し、合計20例について検討した。
- ・本学会の英語版ホームページの更新を行った。

<長期フォローアップ・移行期医療委員会>

- ・計9回の長期フォローアップ・移行期療検討委員会と4回の研修会を全国で行った。
- ・移行期医療の取り組みについて報告された。
- ・長期フォローアップを担当する多職種協働チームの育成として、研修会の開催、専用HPの更新、E-learning システムの導入、「小児がん経験者のためのトランジションステップ」の改訂と配布などを行った。

<遺伝性腫瘍委員会>

- ・革新的がん医療実用化研究事業に小児領域で唯一採択された「がんゲノム医療の推進に資する小児がんの包括的ゲノムデータ基盤の構築と展開」について、本委員会を中心に JCCG のゲノム医療推進委員会と協力して活動していくことが報告された。
- ・臓器横断的ゲノム診療のガイドライン第3版改訂について、第2版の出版に引き続き、日本癌治

療学会と日本臨床腫瘍学会に協力する形で作成することが報告された。

<女性医師活躍支援委員会>

- ・女性医師支援の課題についてWGを形成し、検討を進めることが報告された。
- ・次回学術集会で女性医師活躍支援委員会による特別企画「女性医師キャリア支援セッション」の企画を予定していることが報告された。

5. 第63回小児血液がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、井上会長に報告を依頼し、第63回小児血液がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期:2021年11月25日(木)~27日(土)ライブ配信
2021年11月25日(木)~12月17日(金)オンデマンド配信
- ・会場:WEB開催
- ・テーマ:「Science and Narrative」
- ・2名の演者による特別講演、2つの特別企画では、6名の演者による講演を予定

6. 第64回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、越永次期会長に報告を依頼し、第64回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期:2022年11月25日(金)~27日(日)
※25日、26日は集合型、27日は完全WEBでの開催予定
- ・会場:虎ノ門ヒルズフォーラム(東京都)
- ・テーマ「小児がんの子供と家族を支える」

7. 第65回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、真部次々期会長に報告を依頼し、第65回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期:2023年9月29日(金)~10月1日(日)
- ・会場:札幌ロイトン(北海道)
※現在は現地開催を検討。今後の状況によってハイブリット開催なども視野に入れ検討

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の定時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長ならびに議事録署名人がこれに記名押印する。

令和3年7月31日 一般社団法人日本小児血液・がん学会 定時社員総会

議長 大賀 正一 (印)

議事録署名人 小野 滋 (印)

議事録署名人

多賀 崇

Ⓜ